

山下循環器科内科ニュース第 192 号

2021 年 3 月 1 日発行（隔月発行）

ホームページ <http://yamashita.chobi.net/>

◎新型コロナウイルスのワクチン接種が始まります

新型コロナウイルスが全世界に広がり 1 年以上が経過しました。ウイルス感染症の流行により私たちの生活は大きく制限されています。このような生活がいつまで続くのでしょうか？新型コロナウイルスの治療薬は容易には入手できませんし、感染症が治った後も後遺症が心配です。そのため大切なのはウイルスに感染しないこと、そこで今期待されているのがワクチン接種です。

ワクチンの効果には、①感染そのものを防ぐ「感染予防の効果」、②感染しても症状が出るのを抑える「発症予防の効果」、③症状が出ても重症にならないようにする「重症化予防の効果」、④多くの人がウイルスへの抗体を持つことで社会全体が守られる「集団免疫の効果」、が期待されています。

ではワクチンとは何でしょうか。人は異物（ウイルスや細菌など）が入ってくるとそれを自分でないと認識して攻撃する抗体という武器ができます。この異物を自分でないと認識することで武器が自分自身を攻撃することを防いでいます。この仕組みを免疫と言いますが、一旦抗体ができると、次にその異物が入ってきたときには既に武器があるので速やかに排除できます。ワクチンとは、無毒化された病原体もしくはその遺伝情報を体内に入れることで抗体をあらかじめ作ることで感染を防ぐ方法です。抗体は異物毎に異なるため新型コロナウイルスに対しては専用のワクチン接種が必要です。

新型コロナウイルスワクチンの接種は 2020 年 12 月上旬の英国を皮切りに、世界各国で本格化しています。イギリスでは 80 代以上の感染者の死亡率が大幅に低下しています。ワクチンはいくつもあります、私たちが接種するのはファイザー社のものです。このワクチンは「mRNA ワクチン」といわれ、ウイルス表面にあるスパイクタンパク質（自分でないと認識する場所）をつくるための遺伝情報である「mRNA」を人工的に合成したもので、これを接種すると体内にスパイクタンパク質が形成され、それに対して抗体がつくられます。ワクチンの効果を調べる臨床試験では最終的なワクチンの効果は 95%でした。

心配なのがワクチンの副作用ですが、もっとも頻度が高い副作用は注射した部位の痛みで、約 7 割の人に見られます。また倦怠感、頭痛、筋肉痛が 3 割前後、発熱、関節痛等が 1 割程度にみられます。一番怖いアナフィラキシーは約 10 万回に 1 回程度と極めて低いものです。なお予防接種を受けることができない人は、発熱している人、重篤な急性の病気にかかっている人、ワクチンの成分に対し重度の過敏症がある人、などです。

予防接種は、当初集団接種を予定していましたが接種を受ける人数が多いため各医

療機関でも接種できるようになりました。当院でも予防接種ができるよう申請しています。今後接種が可能となりましたら改めてお伝えします。接種の時期より前に、市町村から「接種券」と「新型コロナワクチン接種のお知らせ」が届きますので大切に保管してください。 (院長 大家 辰彦)

◎アナフィラキシーについて

○アレルギーとアナフィラキシー

新型コロナウイルスのワクチンの接種が国内でも始まりました。健康への影響として心配されているもののひとつが、重いアレルギー反応の「アナフィラキシー」です。どんな症状なのか、またどのような人が注意する必要があるのでしょうか。

本来、ウイルスなどの有害な異物から体を守る免疫のしくみが、食べ物などの体の害にならないものにまで過剰に反応してしまうのが「アレルギー」です。アレルギーとアナフィラキシーは何が違うのか・横浜市立みなと赤十字病院の中村陽一・アレルギーセンター長は「いくつかの臓器で同時に重いアレルギー反応が起きるのがアナフィラキシーです」と説明しています。

アレルギー反応の多くは、原因となる物質を体に取り込んだとき、皮膚にじんましんが出る、鼻の粘膜で鼻炎が起きる、目の粘膜で結膜炎がおきるなど、1カ所に起きて、通常は大事には至りません。一方、アナフィラキシーでは、皮膚や粘膜だけでなく、とくに腹痛や下痢などの消化器症状や、呼吸困難（気管支の収縮など）、血圧の低下など循環器にアレルギー症状が同時に起きます。臓器に血液が行き渡らないショック状態になると、命にも関わります。

○新型コロナウイルスワクチンとアナフィラキシー

米疾病対策センターの論文では、アナフィラキシーが起きた事例の約9割は、接種後30分以内に症状があらわれていると報告されています。

日本での接種では、ワクチン接種後15～30分経過を見て、万が一アナフィラキシーが起きても医療従事者が必要な対応を行うことになっています。

一般的なワクチンに含まれる成分に対する急性のアレルギー反応であるアナフィラキシーの発生頻度は10万人に1人ほど。今回の新型コロナウイルスのワクチンでは、アメリカで100万人に5人程度と報告されています。

中村さんは「一般的にぜんそくの持病がある人は、アナフィラキシーを起こしやすいわけではないが、起きたときに重症化しやすいことは知っておいた方がいいだろう」と言っています。また過去に何らかのアナフィラキシーを起こした経験のある人は、今回のワクチンの接種を控えた方がいいかもしれないとも言っています。食物アレルギーや花粉症の人については、過剰に心配する必要はなく、念のため接種後30分と一般的な人よりも長めに症状の変化がないか確認する時間をとることをすすめています。

現在では医療従事者からワクチンの接種が始まっていますが、今後高齢者の方、一般の方と接種が始まります。ワクチンに関して心配な点がありましたら、当院のスタッフにお尋ねください。 (看護師 佐藤 貴子)